

かひにて、如意輪の御本ぞんをめしかへいて、御ぢそを改易せらる。○中
て、度縁を召返し、げんぞくせさせ奉り、大納言の大輔藤井の松枝と云、ぞく名をこそつけられ
れ。

〔法然上人行狀畫圖 三十三〕安樂、死刑におよびてのちも、逆鱗なほやまずして、かさねて弟子のど
がを、師匠におよぼされ、度縁をめし、俗名をくだされて、遠流の科にさだめらる。藤井の元彦云々、
〔玄同放言下〕姓名稱謂

古書を讀むに、時世は定かならずとも、人の姓名によりて、その時世も、大かたは推しはからる、
ものになん、さればいにしへの人の名を、今より見れば、異なりとおもへども、當時はその名を同
じうするもの、いと多なるも、今人の名に、某右衛門、某兵衛など、同郷合壁に同名のもの多かる
をもて、推してゑるべし、大約六史に見はれたる摺紳に、同名多かる中にも、馬養カウマは、巨勢朝臣
馬飼書紀天伊與部連馬飼持統紀又文武紀四年六月藤原朝臣宇合續紀卷八元正紀養老三年正
合、字合即馬養假字、俗讀爲乃記安比者非、小野朝臣馬養續紀八文忌寸馬養續紀十三調連馬養同猪名真人馬養續紀
正紀猪名粟田朝臣馬養同船木直馬養續紀廿三この他猶あるべし、
〔鹽尻 三十六〕一同時同名之類を、代醉編に多く舉侍る、我國とても、ふたりみたりは、同じ御代に聞
え侍りけれど、近き世、神君御在世の時の如く、同じ名有事は、古しへの文にも見え侍らざるにや、
好事の者に見せばや、迎ゑるす、

酒井將監忠政

阿部四郎五郎忠政

松平與一郎忠政

伊奈筑後守忠政

森右近大夫忠政

本多美濃守忠政

松平攝津守忠政